

■企画展に寄せて

地域の歴史シリーズ1 へだ

■史料館からのお知らせ

二〇一六年一月

史料館通信 沼津市明治

通巻124号



### 沼津垣を背景に自転車に乗る外国人

(当館所蔵)

この写真を撮影したのは沼津町城内に写真館を構えた写真師・鈴木忠視(1849~1907)。忠視は伊豆・岩科(松崎町)の出身で、横浜で同郷の写真師鈴木真一に写真術を学び、明治15年(1882)、上海で写真館「日本照相館」を開業した。これは日本人初の海外での写真館開業ともいわれている。明治24年の末頃帰国して、沼津で写真館を開業した。

この写真はその後沼津で撮影されたもので「明治史料館通信」50号(1997年)の表紙に掲載されている「沼津垣を背景に人力車に乗る外国人」(当館所蔵)と同じ場所で撮影されたもの。右後方に見えるのは香貫山か。撮影時期は近いと思われるが、本品の方が若干後で(明治34年以降)撮影されたものか。



企画展に寄せて

# 地域の歴史シリーズ1 へだ

当館では開館以来、主に沼津の歴史について様々なテーマで企画展を開催してきたが、今回、市内の各地域ごとの歴史を紹介する「地域の歴史シリーズ」を新たにスタートさせた。このシリーズは、明治時代に生まれた旧町村をひとつの区切りとして、すなわち、沼津町・楊原村・片浜村・静浦村・大岡村・金岡村・内浦村・西浦村・大平村・愛鷹村・原町・浮島村・戸田村の一三の旧町村をひとつひとつの地域とし、それぞれの地域の歴史を紹介するというコンセプトである。各地域にはそれぞれ豊かな歴史があるが、これまでのテーマ展では紹介しきれなかった各地域の歴史を掘り起こし、狭く、深く、紹介していくというものである。市民のみならず、各々がお住まいのところはもちろんのこと、それ以外の地域の歴史にも関心を持って頂き、各地域それぞれが、ひいては沼津市が豊かな歴史を持つということを知って頂ければ、との思いもある。今後、各地域ごとに順次開催していく予定である。ご自分がお住まい、出身の地域の展示をどうぞお楽しみに。また、わが地域、わが家にこんなお宝があるんだけど…といった情報をお寄せいただければ幸甚である。

さて、シリーズ第一弾としてとりあげることにしたのは、合併一〇周年を迎えた戸田地域である。旧戸田村は、明治二二年の町村制によって、戸田村と井田村で「戸田村」となり、平成六年（一九九四）には村制一〇〇周年を迎え、平成一七年（二〇〇五）四月一日に沼津市と合併した、沼津市としてはいちばん新しい地域である。しかしながら、その歴史は古く、井田松江古墳群の存在からもわかるように、古くから海とともに生活していた「海人」たちが暮らしていた地域である。古代から中世にかけては井田地区を中心とした井田郷の存在が知られ、戦国期には北条氏の所領として、伊豆水軍の一翼を担った。また、江戸時代には紀州徳川家を始めた諸藩の石丁場が置かれ、幕末のロシア使節プチャーチンのヘダ号建造は、平和な漁村であった戸田村にとっては大きな事件だったことであろう。

本稿では「へだ」展の準備の過程で発見された戦国時代の文書を紹介したい。左頁に掲げた文書がそれである。厳密には新発見ではなく、既に『北条水軍 土

肥の富永一族（土肥町誌編纂委員会編集・発行、平成一〇年）においてその画像だけは紹介されていたことがあるものだが、今回の調査の中で、戸田の妙法山蓮華寺のご住職のご協力で所在が確認できたもので、戦国時代の土肥の土豪で北条氏に従っていた富永政辰から蓮華寺に出されたものである。妙法山蓮華寺は、鎌倉時代、日蓮の信者であった四条金吾頼基の母妙法尼が戸田に住み、日蓮の御影をまつる御影堂を建立した。母妙法尼の没後、頼基が妙法山蓮華寺とし、その約二〇〇年後の応仁元年（一四六七）、日調が戸田の地を訪れ開山したと伝えられる。

富永氏は、政辰の父政直（一四四七〜一五四五）が、伊勢宗瑞（北条早雲）の伊豆乱入の際に宗瑞に味方して以来、戦国大名北条氏の重臣として名を連ねた家で、政直は興国寺城（沼津市根古屋）の城代、北条氏綱の時には江戸城代をつとめた。富永政辰（一五〇八〜一五六四）は、天文一四年（一五四五）、父政直の没後、家督を継ぎ、北条氏康の家臣となった。『小田原衆所領役帳』によれば、豆州西土肥の千貫文を始め、相模・武蔵の所領もあわせると一、三三三貫五〇〇文という大きな禄高を持ち、これは北条家臣団五六〇人中で第七位、西伊豆を本拠とする土豪のなかでは飛びぬけて高いものである。父の跡を継いで城代として江戸城を預かり、関東各地の合戦に出陣して功績をあげ、北条氏が関東の覇者となった天文一五年の「川越の夜戦」に出陣したと考えられている。永禄七年（一五六四）の第二次国府台合戦に出陣し、討ち死にした。

政辰は家督相続後（恐らくはそれ以前も）江戸城など関東方面の最前線にいたことが多く、この書状も本拠地の土肥からではなく、関東方面から出されたものである。「奥方」は主君北条氏康の正室とすれば、瑞渓院殿（今川氏親の娘・義元の妹）の病気に際して、僧を二度も派遣していただいたことへの感謝状といった内容である。

土肥の富永氏の初代政直が土肥に移住してきた時期が応仁の乱前後（永岡治氏の説）とすると、蓮華寺の開山と富永氏の関係も推測され、この書状はその所産といえるものかもしれない。

奥方就煩兩度御使僧御真実之處畏入候  
 一兩日者弥氣相本腹可被御心安候畢竟御  
 精誠故与存迄候次昨日者御城へ出仕申候之處二  
 御相伴申終日御前ニ致祇候種々様々御懇切之  
 出共更ニ難頭紙面候無御手透故去今兩  
 年不致拝領御煩迄致拝領外聞実儀珍重  
 比事候定而可為御満足与令校量候恐々敬白  
 四郎左衛門尉  
 五月四日  
 政辰(花押)  
 蓮花寺 床下

富永政辰の書状 (妙法山蓮華寺所蔵)

奥方就煩兩度御使僧御真実之處畏入候

一兩日者弥氣相本腹可被御心安候畢竟御

精誠故与存迄候次昨日者御城へ出仕申候之處二

御相伴申終日御前ニ致祇候種々様々御懇切之

出共更ニ難頭紙面候無御手透故去今兩

年不致拝領御煩迄致拝領外聞実儀珍重

比事候定而可為御満足与令校量候恐々敬白

四郎左衛門尉

五月四日

政辰(花押)

蓮花寺 床下



# 史料館からのお知らせ

## 企画展「地域の歴史シリーズ1 へだ」開催中

### イベント情報

静岡県指定無形民俗文化財

### 戸田漁師踊・漁師唄 演舞

2月7日(日) 午後2時より

江戸時代に紀州徳川家から伝わったもので、今も保存会の方々によって受け継がれています。この機会にぜひご覧ください。

ギャラリートーク 2月21日(日) 午後1時30分より

学芸員が展示室で資料を見ながら解説します。

12月20日(日)・1月17日(日) ギャラリートークのようす



2月28日(日)まで



## 「魔除けのお面」めりえ みなさんの作品展示中!

今回の企画展ちらしの裏面がめりえになっていたのをお気づきでしたか?

戸田や史料館の近隣の園児・児童のみなさん、来館したみなさんの作品を企画展展示と一緒に展示中です。



戸田では大正時代から、タカアシガニの甲羅に顔の絵を描き、玄関に魔除けとして飾り付けたそうです。

手作りキットも売ってるよ



## 2月23日(火)は富士山の日 観覧無料!

沼津市明治史料館通信

第124号

平成28年1月25日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL055-923-3335

FAX055-925-3018

印刷

みどり美術印刷株式会社

予告

## 江原学習作品展 子どもたちが見た江原素六

近隣の小学生が本年度中に江原素六について学習した作品をお借りして展示します。来年度は下記の日程で開催します。

また5月15日(日)には、第10回となる「そろくまつり」を開催します。ぜひご来館ください。

期間 平成28年4月16日(土)~5月15日(日)